

# 名寄市立名寄小学校いじめ防止対策推進計画

令和5年3月改訂

## 1 いじめの理解

### (1) いじめの定義

- ・「いじめ」とは、児童に対して、当該児童が在籍する学校に在籍している等当該児童と一定の人的関係のある他の児童が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童が心身の苦痛を感じているものをいう。
- ・「一定の人的関係」とは、学校の内外を問わず、同じ学校・学級や部活動の児童や、塾やスポーツクラブ等、当該児童が関わっている仲間や集団(グループ)など、当該児童と何らかの人的関係を指す。
- ・「物理的な影響」とは、身体的な影響のほか、金品をたかられたり、隠されたり、嫌なことを無理矢理させられたりすることなどを意味する。けんかやふざけ合いであっても、見えない所で被害が発生している場合もあるため、背景にある事情の調査を行い、児童の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断する。
- ・軽い言葉で相手を傷つけたが、すぐに加害児童が謝罪し教員の指導によらずして良好な関係を再び築くことができた場合等においては、学校は、「いじめ」という言葉を使わず指導するなど、柔軟な対応による対処も可能である。ただし、これらの場合であっても、いじめに該当する。

### (2) いじめの内容

具体的ないじめの態様としては、次のようなものがあります。

- 冷やかしたりからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる
- 仲間はずれ、集団による無視をされる
- 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする
- ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする
- 金品をたかられる
- 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする
- 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする
- パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる等

### (3) いじめの解消

いじめが「解消している」状態とは、少なくとも次の2つ要件満たされる必要がある。

- ① いじめに係る行為が止んでいること
- ② 被害児童が心身の苦痛を感じていないこと

## 2 いじめ防止対策の基本理念

- (1) いじめは、全ての児童に関係する問題であり、いじめの芽はどの児童にも生じ得るという緊張感を持ち、児童が安心して学習等に取り組むことができるよう、学校の内外を問わずいじめが行われなくなるようにする。
- (2) 全ての児童がいじめを行わず、他の児童に対して行われるいじめをはやし立てず、これを認識しながら放置することがないようにするため、いじめが児童の心身に及ぼす影響その他のいじめの間

題に関する児童の理解を深める。

- (3) いじめを受けた児童の生命及び心身を保護することが最も重要であり、いじめを受けた児童に非はないという認識に立ち、学校、家庭、地域住民、行政等の関係者の相互の連携協力の下、社会全体でいじめの問題を克服する。
- (4) 児童が発達の段階に応じて、望ましい人間関係を自ら構築していく力とともに、けんかなど交友関係から生じたトラブルやいじめの問題を解決し、人間関係を修復していく力を身に付け、安心して学習やその他の活動に取り組むことで、将来の夢や希望をしっかりとって、主体的に個性や能力を伸ばし、変化の激しい社会において、自立し、粘り強く、たくましく生きていくことができる力を育む。

### 3 関係者の責務・役割

#### (1) 学校及び教職員の責務

- ①学校及び教職員は、児童の保護者、地域住民その他の関係者との連携を図りつつ、学校全体でいじめの未然防止、早期発見に取り組むとともに、児童がいじめを受けていると思われるときは、当該児童を徹底して守り通し、いじめの早期解消のため適切かつ迅速に対処する。
- ②学校及び教職員は、教職員の言動が児童に大きな影響力をもつとの認識の下、児童一人一人についての理解を深めるとともに、児童との間の信頼関係の構築に努める。
- ③学校及び教職員は、いじめの早期発見が不可欠であることから、児童のささいな変化・兆候であっても、いじめとの関連を常に考慮して、早い段階から関わりをもち、いじめを看過したり軽視したりすることなく、積極的にいじめの認知に努める。
- ④学校及び教職員は、いじめを発見し、又は相談を受けた場合は速やかに、「学校いじめ対策組織」に対し当該いじめに係る情報を学校の定めた方針等に沿って、報告・記録し、学校の組織的な対応に繋げるよう努める。
- ⑤学校及び教職員は、児童に直接指導する立場にあることから、教職員の不適切な認識や言動、差別的な態度や言動が児童を傷つけたり、他の児童によるいじめを助長したりすることのないよう十分留意する。

#### (2) 保護者の責務

- ①保護者は、子の教育について第一義的責任を有し、その言動が保護する児童に大きな影響力をもつとの認識の下、当該児童がいじめを行うことのないようにするため自ら範を示すなどして、規範意識、生命を大切にし他人を思いやる心などの基本的な倫理観を養うための教育等を行うよう努める。
- ②保護者は、日頃から家庭において、その保護する児童との会話や触れ合いを通して生活の様子の変化や不安な気持ちなどの兆候をいち早く把握できるように努め、把握した場合には、児童に寄り添い、悩みや不安等を共感的に理解するとともに、学校をはじめ関係機関等に相談して支援を受けながらその解消に努める。
- ③保護者は、その保護する児童がいじめを受けた場合には、児童の気持ちを受け止め、心と体を守ることを第一に考え、「絶対に守る」という気持ちを伝え、安心させるとともに、児童の心情等を十分に理解し、対応するよう努める。
- ④保護者は、市教育委員会及び学校が講ずるいじめ防止等のための措置に協力するよう努める。

#### (3) 市民及び事業者の役割

- ①市民及び事業者は、地域において児童と触れ合う機会を大切にし、地域全体で児童を見守るとと

もに、学校、家庭、地域住民、行政その他の関係者と連携協力して、児童が健やかに成長できる環境づくりに努める。

②市民及び事業者は、いじめが行われ、又は行われている疑いがあると認めた場合に学校へ通報するなど、市教育委員会及び学校が講ずるいじめの防止等のための措置に協力するよう努める。

#### 4 いじめ防止基本方針策定の基本的な考え方

- (1) 学校は、名寄市いじめ防止基本方針を参酌し、学校の実情に応じ、いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針(以下「学校いじめ防止基本方針」という。)を定める。その際、学校いじめ防止基本方針を定める意義を明確にするよう努める。
- (2) 学校は、学校いじめ防止基本方針を定めるに当たっては、学校に在籍する児童の保護者及び地域住民の参画を得るとともに、学校に在籍する児童の意見を反映させるよう努める。
- (3) 学校は、学校いじめ防止基本方針について、各学校のホームページへの掲載その他の方法により、保護者や地域住民が学校いじめ防止基本方針の内容を容易に確認できるような措置を講ずるとともに、その方針の内容を必ず入学時・各年度の開始時に児童、保護者関係機関等に説明する。
- (4) 学校は、学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施状況を学校評価の評価項目に位置付け、評価結果を踏まえ、学校におけるいじめの防止等のための取組の改善を図る。

#### 5 いじめ防止対策のための組織の設置

学校は、学校におけるいじめの防止等に関する措置を実効的に行うため、学校の複数の教職員及び必要に応じて参加する心理・福祉等に関する専門的な知識を有する者その他の関係者により構成されるいじめの防止等の対策のための組織を置く。

#### 6 いじめの未然防止・早期発見

- (1) 学校は、児童の豊かな情操と道徳心を培い、心の通う対人交流の能力の素地を養うことにより、いじめが生まれにくい環境をつくるため、全ての教育活動を通じた道徳教育及び体験活動等の充実を図るとともに、いじめの未然防止に資する予防的な生徒指導を推進する。
- (2) 学校は、いじめを防止するため、児童の保護者、地域住民、社会教育関係団体その他の関係者との連携を図りつつ、児童の人間関係に関わる問題を解決する能力の向上に資する教育活動の推進、いじめの防止等に資する児童の自主的な企画及び運営による活動に対する支援を行う。また、児童、保護者、教職員等に対するいじめの防止に関する理解の促進その他の必要な措置を講じる。
- (3) 学校は、児童、保護者が、インターネットを通じて行われるいじめを防止し、効果的に対処することができるよう、児童に対する情報モラル教育の充実に努めるとともに、保護者に対して、必要な啓発活動を行う。
- (4) 学校は、教職員に対し、いじめの防止等のための対策に関する研修の実施その他のいじめの防止等のための対策に関する資質の向上に必要な措置を計画的に行う。
- (5) 学校は、いじめの実態を的確に把握し、いじめの早期発見、早期解消を図るため、質問票の使用及び児童の面談等による定期的な調査その他の必要な措置を講じる。
- (6) 学校は、児童、保護者、教職員がいじめに係る相談を行うことができる体制を整備する。また、いじめを受けた児童の教育を受ける権利等が擁護されるよう配慮する。
- (7) 学校は、発達障害を含む障害のある児童、海外から帰国した児童、性同一性障害や性的指向等に係る児童、東日本大震災により被災した児童に対するいじめが行われないよう、日常的に当該児童の特性を踏まえた適切な支援を行うとともに、保護者と連携し、周囲の児童に対する必要

な指導を組織的に行う。

- (8) 学校は、配慮を必要とする児童の交友関係等の情報を把握し、入学や進学時の学級編制や学校生活の節目の指導に適切に反映する。

## 7 いじめの対処

- (1) 学校は、いじめの通報を受けたときその他児童がいじめを受けていると思われるときは、速やかに、当該児童に係るいじめの事実の有無の確認を行うための措置を講ずるとともに、その結果を市教育委員会に報告する。
- (2) 学校は、いじめがあったことが確認された場合には、いじめをやめさせ、その再発を防止するため、複数の教職員によって、心理・福祉等に関する専門的な知識を有する者その他の関係者の協力を得て継続的に対応する。
- ①いじめを受けた児童に対する支援、その保護者に対する情報提供及び支援
  - ②いじめを行った児童に対する指導及び支援、その保護者に対する助言
  - ③いじめが起きた集団へのはたらきかけ
- (3) 学校は、いじめが行われていた場合、その保護者と情報を共有して別に指導を行い、いじめの非に気付かせ、いじめを受けた児童への謝罪の気持ちを醸成させるなど組織的に対応する。
- (4) 学校は、必要があると認めるときは、いじめを行った児童についていじめを受けた児童が使用する教室以外の場所において学習を行わせる等いじめを受けた児童その他の児童が安心して教育を受けることができるようにするために必要な措置を講じる。
- (5) 学校は、いじめを受けた児童の保護者及びいじめを行った児童の保護者との間で争いが起きることのないよういじめの事案の円滑な解決を目指して、これらの保護者の理解と協力の下、当該いじめ事案に係る情報をこれらの保護者と共有するための措置その他の必要な措置を講じる。
- (6) 学校は、いじめが犯罪行為として取り扱われるべきものであると認めるときは所管警察署と連携して対処し、児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは直ちに所轄警察署に通報し、適切に援助を求める。
- (7) 校長及び教員は、学校に在籍する児童がいじめを行っている場合であって教育上必要があると認めるときは、学校教育法第 11 条の規定に基づき、適切に、当該児童に対して懲戒を加えることができる。

## 8 重大事態への対処

学校は、次の重大事態が発生した疑いがあると認める場合には、市教育委員会に報告する。又、児童や保護者から、いじめにより重大事態に至ったとの申立てがあったときも同様とする。

- (1) いじめにより学校に在籍する児童の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。
- (2) いじめにより学校に在籍する児童が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。(年間 30 日を目安。一定期間連続して欠席しているような場合など)

## 9 取組の点検・評価

学校は、学校いじめ防止基本方針について定期的に点検及び評価を行い、必要に応じてこれを見直す。見直す際には、学校の取組を円滑に進めていくため、保護者、地域住民、関係機関等の参画を得て進める。また、児童とともに、学校全体でいじめの防止等に取り組むため、アンケートや協議の場を設けるなどして児童の意見を取り入れ、より分かりやすい基本方針となるよう努める。



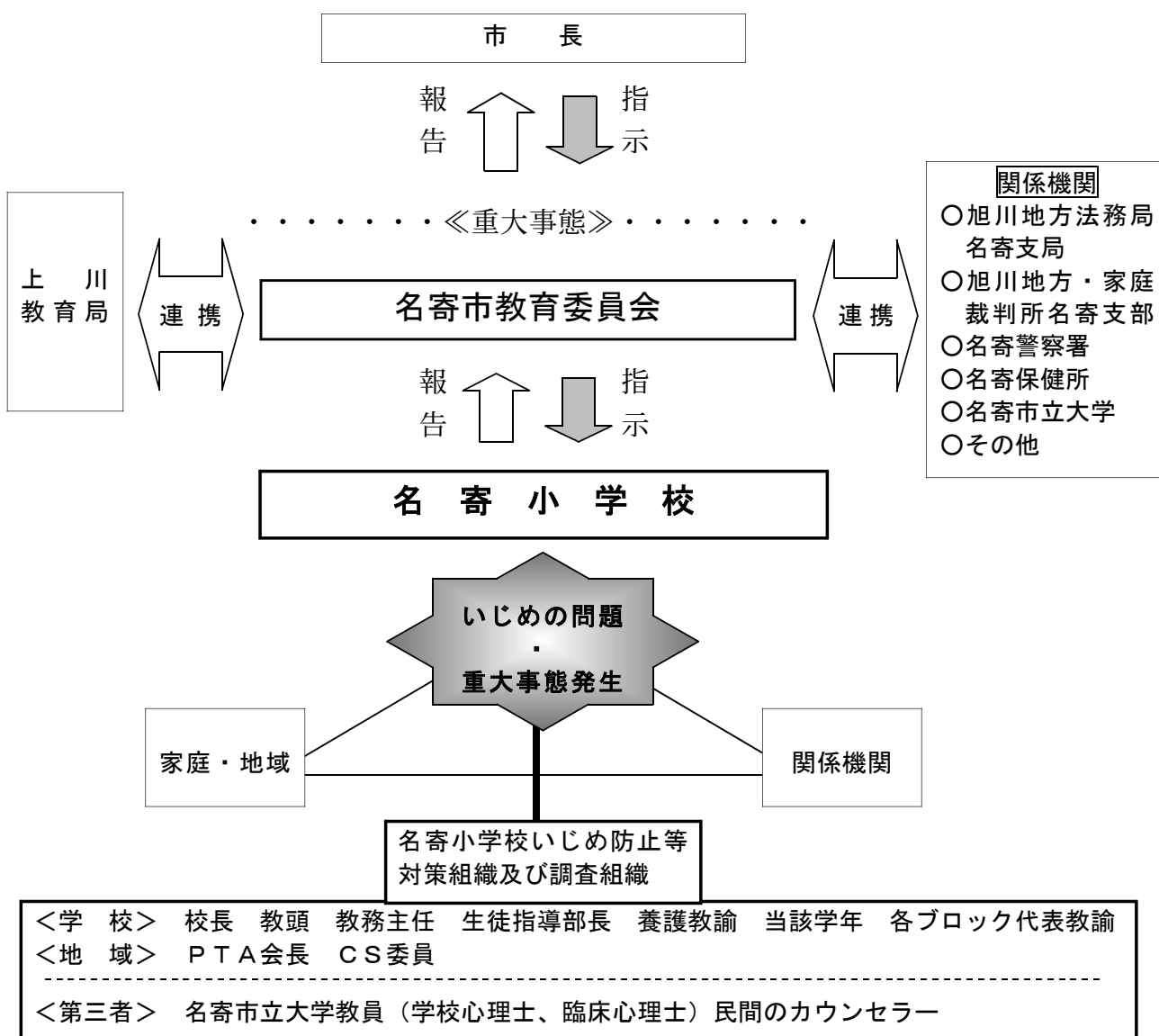
## 10 年間計画

本校は、いじめの未然防止、早期発見及び早期解消その他のいじめへの対処(以下「いじめの防止等」という。)のための対策に関する基本的な方針(以下「名寄小学校いじめ防止基本方針」という。)を定め、校長の強力なリーダーシップの下、教職員の一致協力体制を確立し、名寄市教育委員会(以下「市教育委員会」という。)と適切な連携を図りながら、いじめ防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進し、児童の尊厳を保持するとともに、児童が互いの違いを認め合い、支え合いながら、健やかに成長できる学校をつくる。また、その推進にあたっては下記の通り計画し、進める。

月	具体的取組	備考
4	①いじめ防止基本方針の確認 ②自校アンケート(2種類)の活用、分析 ③個人懇談の実施	学校HPでの発信 児童の実態把握・分析 家庭との連携と児童理解
5	①生徒指導交流会の実施 ②全児童の教育相談実施 ③「いじめ」問題に関する校内研修の実施	児童実態の交流 児童との信頼関係づくりと問題点把握 共通理解と意識づけ
6	①「いじめ」アンケートの実施 ②朝会における「いじめ」に関わる講話 ③児童会における取組 ④児童対象の教育相談の実施 ⑤全学級QU検査の実施	実態把握と対象児童への指導等 児童への意識啓発 児童の主体的取組の醸成 問題点の解決 学校生活意欲と学級満足度の把握・分析
7	①名寄市小中学校いじめ防止サミットの取組 ②保護者懇談の実施 ③学校評価、児童アンケートの実施、分析、改善	児童の主体的取組の醸成 家庭との連携と児童理解 児童の実態把握と分析
8	①学期初めの児童の状況の把握 ②学校だよりでの分析結果の公表	日常の児童観察、児童理解の継続 家庭・地域情報の共有と発信
9	①学校評価、保護者アンケートの実施、分析、改善 ②地域参観日での取組の交流	保護者の実態の把握と分析 児童・家庭・地域との情報の共有と発信
10		日常の児童観察、児童理解の継続
11	①「いじめ」アンケートの実施 ②全学級QU検査の実施	実態把握と対象児童への指導等② 学校生活意欲と学級満足度の把握・分析
12	①個人懇談の実施(保護者) ②学校評価、児童・保護者アンケートの実施、分析、改善	家庭との連携と児童理解 児童・保護者の実態の把握と分析、問題点の解決
1	①児童会における取組	児童の主体的取組の醸成
2	①本年度の取組の総括と改善、推進	日常の児童観察、児童理解の継続
3	①学校だよりでの分析結果の公表 ②新年度推進計画の立案	家庭・地域情報の共有と発信 日常の児童観察、児童理解の継続 学級経営等の反省と確実な引継ぎ

## 11 校内組織

- (1) 校務分掌に「いじめ防止等対策委員会」を位置づける。  
構成は、校長・教頭・教務主任・生徒指導部長・養護教諭・当該担任・各ブロック代表教諭・PTA会長・CS委員とする。(場合によっては、他の関係機関)
- (2) 役割として、「いじめ」の未然防止、早期発見、早期解決等、「いじめ」問題の防止や対応に向けた取組を進めてく。
- (3) 「いじめ」に関する情報や早期解決に向けて等の取組については、児童の個人情報の取り扱いを考慮しながら、全教職員が共有するようにする。
- (4) 学校評価においては、年度の取組について、児童や保護者アンケート、教職員の評価を行い、その結果を公表し、次年度の取組の改善に生かす。
- (5) いじめ防止等対策委員会及び調査組織



- 関係機関**
- 旭川地方法務局  
名寄支局
  - 旭川地方・家庭  
裁判所名寄支部
  - 名寄警察署
  - 名寄保健所
  - 名寄市立大学
  - その他